

二の丸御殿の発掘調査

二の丸御殿は、大天守の東側、太鼓門の北側に位置する居住区と執務施設で構成されていた。城内に3つある御殿の一つであった。1970年代から80年代にかけて行われた二の丸跡の発掘調査では、16世紀から19世紀にかけての日本の支配階級の生活を明らかにする石塁や数多くの遺物が出土している。

城の周囲には堀が巡らされ、城は曲輪と呼ばれる同心円状の区画に分けられている。一番奥の堀を本丸、一の丸と二の丸の間を二の丸と呼ぶ。本丸御殿は、1727年に焼失するまで松本城の行政の中心であった。その後、行政機能は二の丸御殿に移った。

明治維新（1868）後の1871年、二の丸御殿は県庁となったが、5年後に火災で消失した。その後、裁判所となり、1978年に三の丸に移築された。二の丸は考古学的な発掘調査や修復を経て、公園として整備された。